

暮春

宮坂静生



こんもりと茂りはじまるみなと横須賀  
長き戦後ドブ板通りさくら葉へ  
光陰を沖へ押しゆく春の濤  
クレーンの暮春の海を吊りるたる  
軍艦の吃水線や春深し  
軍艦を重し重しと磯なげき  
軍艦に和して馴染まず春の海



霞まざる軍艦に隙なかりけり  
春の鬱払ひ舳先は刃のひかり  
喉鳴らす港の鳩や春の呪詛  
銑鉄に気泡のひそむ暮の春  
海底は怒り貯へ春日傘  
詰襟の新入生も銅鑼の町  
天皇の退位へいつとなく暮春  
罹災者と同じ潮の香やませ突き